

このあと4つに大きく分かれる前までは、クラブ活動と生活グループに分かれていました。クラブ活動は作業的な内容、生活グループは、劇、模擬キャンプ、音楽を聴くとか、いろいろな経験・体験をした中で、本人さんたちの（私たちは仲間と呼んでいるんですが）好きなものが見つかり、それを特化してサークル活動が生まれてきたという経緯があります。サークル活動を通して、いろいろな経験をしていこうとスタートして、どんどん分化していったという形です。でも今のこの活動が、長く続いているので、来年度に向けて、今年度はプロジェクトチームを立ち上げてやっています。

週間プログラムは、サークル活動、グループ活動、花金活動、に分かれてやっています。入浴は、週1回、午後だけです。家で入浴が大変な方を10名ほど介助しております。

それではグループ活動ですが、もりもりのグループは歩ける方、車椅子の方、いろんな方がみえるんですけど、それぞれミキサーが好き、缶つぶしの音が好き等、好きなことをグループにしたという方たちが多いです。

缶つぶしは、すごく真面目な方が、長いことやっています。この方は音が好きで、缶がつぶれる音が好きで、がんばってやっています。自分で缶を入れることができる方は胃ろうをされています。潰した缶を業者に一緒に持っていき現金に換えてもらっています。こういうことも仲間たちと一緒にやっております。

これは紙ちぎりです。牛乳箱を使って和紙を作るために、紙ちぎりをやっています。ギャラリーをもっている町の喫茶店「風見鶏」で、今年の2月、作品展示会をやり、みんなが作った作品を展示販売しました。毎日、仲間たちが2、3人ずつ交代で売り子になってやっています。

これは缶つぶしのメンバーです。缶集めと缶つぶしのメンバーで、ビールってどうやって作られているんだろうとビール工場の見学に行った写真です。最後にビールの試飲をしました。

ひとつの活動から、ぶつ切りでどこかに行こうではなく、その活動の内容から、こういう所に行こうとか、つながりを考えていく感じです。缶つぶしから、どんなふうに缶ができているか、どんなふうに缶がリサイクルされていくか、そんなものも含めて仲間たちと一緒にやっていけるといいかなと思います。作業だけでなく、いろんな経験ができるといいなと考えてやっています。

これは、やってミントという陶芸グループです。まめ蔵という近くの豆腐屋さんで作品を展示販売させてもらっています。仲間と作品を納品に行っています。

近所にある、シーベースカフェというレストランでは、陶器の器を使って、ランチをやっています。このグループは陶器のお皿等を作っているのですが、このお店に話をしに行き、仲間たちと足繁く通い、自分たちが作っている皿を使ってくれないかという思いをもって、最終的にこのお皿をちょっと買って頂き、使ってもらっています。最初は店長さんもどのように付き合ったらいいのか、どういう声かけをしたらいいのかという感じでした。最初はスタッフに声かけしていたのが、訪れるごとにだんだんと仲間たちに声をかけてくれたり、行くことによって仲間たちとのつながりができてきています。ただ、2月の終わりで移転してしまったので、すごく残念です。本当に残念ですが、グループでアルバムを作って、店長さんにお届けして、最後の1週間ぐらい、みんなで食べに行きました。店長さんもすごく喜んでくださって、うるうるしていました。そんなつながりができたので、ちょっと寂しいですね。

これは愛光園の隣に、ひかりのさとファームという、B型と生活介護をするところです。そこのレストランも陶器を使っているのですが、小鉢を使ってほしいと話をしに行ったときの写真です。

これはいちごというグループです。このグループは電動車椅子の方、お話のできる方、自分でやれる方たちが所属しているグループです。大府市の市民活動センターグラビアというところでワンデーシェフとってうどん打ち等いろいろなサークルが曜日で出店している催しがあります。

そこで、夏と秋の年2回、お好み焼き定食を1食650円を出しています。お客さんは、関係者の方が多いです。肉を焼く等準備もできる場所は一緒にやります。最後は、みんなでお好み焼きに鰹節や、海苔をかけたり、厨房にはボランティアさんが4名ぐらいきていただいて、仕上げをやっていただいたりしています。最後には、ボランティアさんと一緒に食事をしています。これは、やってミントというグループが作ったいちごの陶器の看板です。皆さん、練習をして、作ったものを他のみんなに食べてもらい感想をもらったりして、技術を上げていっています。

さんさんというグループは、パン作りを中心にやっています。地震の後、パンの売上げを、義援金として、1年間で1万円ぐらい送り続けています。また、ご高齢の方との交流会であったり、特別支援学校の生徒さんと夏に交流会をしたりしています。

青空喫茶カフェ・ド・シホ。シホというのは本人さんの名前です。パン作りで、メロンパンを作っています。シホさん、とても笑顔が素敵で、アルファード波が出ていると言われてはいますが、本当に私たちが気持ちほっとするというか安らぎます。そんな笑顔をもっている方が店長で、コーヒーを出してくれるんです。店員は同じグループの方です。

玄関の前を喫茶スペースにして、他の事業所の方や近所の90戸ぐらいの団地にもお知らせを出したりしています。なにせ共働きの方が多いものですから昼間はちょっと難しくて、来た実績はないですね。

花金活動のたららん白書グループは演劇活動とコンサート活動を行っています。演劇は保育園での公演を1年に1回、行っております。今回は交通戦隊パトレンジャーということで、園児たちにも一緒に楽しめるよう、内容を変えました。良い者と悪者に分かれて、戦います。園児は素直で、赤レンジャーがんばれ等、自然に声が出て、すごく一体感のある公演になっています。これは夏のコンサートです。楽団の有志の方に来ていただいて、寸劇をした後、一緒にコンサートをしています。

よくばりグループは、学生さんのボランティアサークルと一緒に活動をしたり、新聞づくりでいろいろな所に取材に行ったりしております。これは東浦ぶどうです。東浦ワインの組合長の所に行って、いつ収穫して、どういうふうにワインを作るのか、取材に行ったときの写真です。これはスターバックスの取材に行って、コーヒーの作り方などを聞いているところです。こういった取材をしたものを記事にして新聞にしています。

あとは学生さんとの企画で、年に1回、学生さんが中心となってミステリーツアーを考えてくださっています。エビせんべいの里に行き、みんなでせんべいを作っているところです。

はちくんはよさこいのグループの方と一緒に踊りをしています。これは愛光園で練習して、愛光園の夏祭でボランティアさんと一緒に踊るといのが中心ですね。

これはボランティアさんのいちご畑に収穫しに行ったところです。お二人、気管切開をされていて、上の方は気管切開されていて胃ろうされている方。下の方は腸ろうの方です。

そのあとにランチをして、ボランティアさんに土の作り方等畑の講習をしてもらったり、実際に土を触ってみたりしております。

サークルは、趣味的な活動を何個か紹介をしていきたいと思います。

この中にある、モスるっ！というのは、毎週モスバーガーに行く事です。もうずっと行っているの、電話一本入れるだけで席を取ってくださって、良い関係になっているなどと思います。

むじかという音楽のサークルです。春と夏に2回コンサートを行っております。外部の方に毎週来ていただいて、一緒に演奏したり、歌ったりしています。

その他、今年はプラネタリウムを観に名古屋市科学館に行きました。プラネタリウムは暗くなるので眠くなって寝てしまっています。

食事になったら起きるそうですけれど。映像等、見るのが好きな方もみえるので、良い機会になったのかなという感じですね。

フラワーメッセージ、園芸も月に1回、先生に来ていただいて、フラワーアレンジメントを一緒にやっていただいております。

これは文化の日です。普段はいろんな本を読んだり、音楽を聴いたりしています。半田市の赤レンガで、OHPを使い、床や天井や壁等部屋全体に影絵を照らしている中を歩くという体験です。スヌーズレンという感じですか。

仲間たちの意思決定というか、自己決定というところで非常に大事だということを、ずっと言ってきていますが、それはいろいろな経験・体験をするということからスタートするのかなと思います。私たちだったらパソコンや自分で見たり聞いたりしていろいろな情報を仕入れ、自分にとってはこれがおもしろい、これをやってみたいと簡単にできると思うんですけど、仲間たちにとっては非常に難しいところがあります。

情報提供はするけれど、やはり体験してみないとわからない、経験してみないと感じられないことがあるので、いろんな経験や体験を積み重ねていく。その中で、自分の好きなこと、嫌いなこと、もう一度やってみたいという気持ちが表れてきて、それが顔の表情、身振り手振りとか、いろんな形で意思を表現していくんですね。それを僕たちスタッフが汲み取って具現化していくことが一番大事。サインの共有ですね。これが自己決定に繋がってくるので、一番大事なところなんです。この音楽を聴いたときにちょっと笑ったよね。じゃもう1回、聴いてみようかという、そういう繰り返しの中で、本人さんも好きなことが実感できると思います。サインを共有し、繰り返すことで、手を動かしたときは、こういうふうにとってくれるんだと、本人さんもわかってくると思うんです。これが一番根底にあることかなと思っています。

私たちの活動は、地域に出ていくとか、地域の方をお呼びするとか、地域の方とのつながりを大切に、いろんな方と触れ合いながら関係性の広がりをつくっていきたくないと活動を展開してきました。20何年、仲間たちと付き合ってきて、本人さんの笑顔やしぐさが本当に心を揺さぶるといふか、気持ちをほんわかさせてくれたりとか、あったかくさせてくれたりとか、本当に心地よさを感じさせてくれたり、いろんな人間的な素晴らしいものを持っている人たちかなと思います。そんな方たちだからこそ、いろんな方に知っていただき、関わりを持っていただきたいと思っています。その存在の大きさが本人さんたちの大きな働きにつながっていき、いろんな方と結びついていきたくと思っています。

人は、人の中で人に認められて、人として輝きを増していく。これは横浜の朋の日向先生が言ってくれた言葉です。まさにそうだなと思っています。

僕は最終的には、「愛光園の人」から、「〇〇さん」ってなってほしいと思います。愛光園の、グループの〇〇さんから、〇〇さんと呼んでいただけるような関係性が増えてきたらいいなと思って活動をしています。

日中活動の中でさまざまな経験・体験をしていき、本人さんらしく輝ける取組であってほしいです。生活の豊かさを追求していくところかなと。活動場所は、生活の核となる場所とっております。本人たちの思いをどういうふうに汲み取って、それをいかに具現化していくかの繰り返しかなと思います。自己実現する場所であり、本人さんが主体者である場所かなと思っています。

活動ですけれど、同じような活動を、今のプログラム体系で長くやってきているんです。15年ぐらいでしょうか。スタッフも仲間たちに対する、好きなものと嫌いなものが、すごく固定化されてきて、それで広がりが出てきていないという感じです。

それは新しく挑戦することに対する怖さだったり、不安がちょっと出てきたかなということで、今年度は、プロジェクトチームを立ち上げて、月1回いろんなことを考えてやっています。今の仲間たちの様子も振り返りながら、今どんなことが好きなんだろうか、どんなことができるんだろうか、もっとこんなことができるよねと話しながら支援につなげていっております。

課題は、各活動の内容が固定化されてしまい、それによっていろいろな経験・体験をする機会が少なくなっているのではないかとことです。スタッフの仲間に対する捉え方が固定化されてきているのではないかと思うこともあります。

そんな課題から28年度のプログラムのコンセプトを、仲間たちの新たな力を発見していくことにしました。コミュニケーション力の発見から、仲間たちのエンパワメントを高めていく活動を考えていけるといかなと思っております。

そのために、スタッフが、いろんな経験・体験できる機会を増やしていき、本人さんの一つひとつの細かい、小さい動きをとらえて、想像し、いろんな活動の展開につなげていくことが大事だろうなと思っております。

どんなことをしたときにこういう動きが出たんだろうか、どんな話をしたときにそんな動きが出たんだろうかと、いろんなシチュエーションの中で見逃さずにつかまえ、私たちスタッフの目線を持っていき、その動きに、感動・共感・共有していくことが大事だなと。ここから新たな活動の展開というか、仲間たちと一緒に活動を考えていくことにつながっていくのではないかと思います。今、スタッフと話をしながら取り組み、ちょっとずつ変わってきているかなと思っております。まだまだこれからかなというところですよ。今までは実践活動のところのお話です。

グループホームの暮らしについてですが、今、42名のうちグループホーム定住者の方が18名います。体験宿泊で一人、利用されているという形です。法人関係の5軒のホームに住んでいる方が15名、他法人のホームにすんでいる方が3名みえます。平成9年に、わいわいハウスが開所し、くららとおれんちが愛光園が移転した旧跡地に建ったグループホームです。5軒ともすべて大府市内にあります。

ここからホームをつくるまでについてお話をさせていただきます。

平成元年に宿泊トレーニングというナイトケアをしました。制度的にはミニナイトですから、金曜日の夜に泊まり、土曜日の午前中に帰るという感じでやり始めました。毎週ではありません。時々泊まるという感じ。グループで泊まります。愛光園から親御さんに泊まりもやりますと言って、グループでの宿泊にしたというもので、親御さんからの依頼で行っているものではないです。

障害を含め、夜は、どんな生活をしているのかというところを少しずつ知っていったり、仲間たちも親元を離れて暮らすってどんなことなんだろうと少しずつ体験できるように、というところでスタートした、宿泊トレーニングです。

毎年やっていて、最初は園内で泊まっていたんです。園内だと面白くないよねということで、平成4年の前年に、大府市の勤労文化会館という宿泊施設にグループで泊まったりしながら、平成4年にわいわいハウスという、公的補助はなく、運営費は家族会から負担するという形でスタートをしました。

わいわいハウスに移った時には、定期的に1泊2日を入れながら、4人位、男女2人ずつ位で泊まっています。泊まって練習していこうという事です。借家だったので、すごく狭い所でしたけれど、和気あいあいと楽しくやれる場でした。平成7年に「仲間の家」というホームができて、定住できる方は定住していきました。その間、グループホームを考える会から作る会を立ち上げて、お母さん方と、ホームをどういうふうに立ち上げていこうかと話しながら進めていきました。

A会員、B会員、C会員と作って、A会員は定住を希望される方、B会員はホームができてショートステイみたいな感じで使いたいという方、C会員は緊急の時はお願いしたいという感じで、平成7年に立ち上げたという感じです。

平成4年の、わいわいハウスでの1泊2日からスタートして、1泊2日だとよくわからんよねと言って、2泊3日を作り、2泊3日だったら排泄の関係がよくわからんよねと、3泊4日をやったりと、ずっととぼして行ってやっていました。この間、楽しかったというか、仕事というよりも子どもたちと一緒にやるという事におもしろさがあったんでしょうか。体はしんどかったんですが、精神的にはそんなにしんどくなかったな。そんな中で、平成7年にホームができて、平成9年に新築。新しく裏にもう1軒建てたんです。順番にホームができていったということです。

平成15年までは、日中のスタッフが応援に来て宿直をやっていましたが、平成16年にヘルパーステーションを立ち上げて、そこでヘルパーが入ってくるという形をとりながら並行していき、日中のスタッフもだんだんと減ってきています。

おれんちができました。おれんちとくらは、うちの法人の入所施設の地域生活移行の方たちも含めての混成メンバーです。グループホームのメンバーですが、胃ろうの方、腸ろうの方、吸入が必要な方とか、そんな方たちも住んでいます。ですから、いろんなNPOの方たちにも現場に入ってお手伝いしていただきながら、いろんな支援を組み合わせられないと難しく、看護の方や、他の事業所にお手伝いしていただきながらやっています。かなり厳しいところもありますが、いろいろな方たちに手伝っていただきながらやっています。

この方は胃ろうの方です。胃ろうしていますけれど、経口摂取ができる方なので、胃ろうしてから、体調に大きな変化がなくなりました。食欲が落ちたとしても、ある程度胃ろうから注入し、栄養補給ができるようになったという事もあり、健康管理としても胃ろうをつけて良かったかなと感じる事はあります。水分が飲みづらい方なので、水分を入れるというのはすごく大きいかな。近くの美容院に散髪に行ったり、公民館の祭りに行ったりしています。数多くはないですが。

このような方たちが交わり合いながら、重心の方の生活を支えていく事が必要かなと思っております。ただ、医療機関との連携等、うちなんかはまだまだだなどという感じです。これからですね。こういう方たちにも支えてもらいながら、生活を組み立てるという事が必要かなと思います。

うちも自立支援協議会が1市2町ではあるのですが、ほとんど動いてないというか、動いてはいますけれど、このような生活検討会とか重心の方の生活を考えるということ、親御さんを交えて一緒に話をするとか、そういうこともないと思うんです。今回の機会は非常に羨ましいなと思います。

最後に、グループホームを考える会を立ち上げて3年ぐらい経ち、今も13人ぐらいいいます。他のグループホームから立ち上げ、男性と女性とで5人・5人のグループホームです。男性のほうは稼働しているんですけど、女性のほうがまだ稼働できていないんです。人材難で非常に厳しく、特に女性は厳しいですね。親御さんたちから早くしてほしいというニーズは、本当にありますけれども、実際人材不足で目途が立たないのが現状です。法人でもどうしていくかを考えていかなければいけないのですが、厳しい現状です。

在宅は、法人でりんくというヘルパーステーションをもっており、地域にも居宅支援事業所がありますが、重心の方となると人材的に厳しく、親御さんがかなり高齢になってきているなか、がんばっている方が多いのが現状です。

先ほど検討会の中で出ていましたけれど、ショートステイはうちの方でもやはりなくて、うちの法人の療護施設でやっています。そこは気管切開の方もショートを受け入れてくださっています。日数は少ないですが、ちょこちょこできるという状況です。同じような課題がうちも大きく出ております。

あと、将来の生活というところで、グループホームに定住してきた方たちが多いですが、家が好きな方が多いですね。仲間たち、本当に家が好き。特にお母さんが好き。将来の生活はグループホームや入所がいいというのがあるんですけど、仲間たちが折り合いをつけていくことがすごく大事だなと思います。うちのホームも1泊から2泊、3泊と少しずつ延ばしていったんです。2泊ぐらい泊まりだして何か月か経ったあとに、なぜかしら熱を上げる方がみえるんです。なにかおかしい、いつもと生活が違うよなって。家に帰るけど、やたらホームにも泊まるようになったなって。それがすぐではなく、何か月か経ってからわかってきて、熱を上げる方がみえました。家に帰るとちょっと下がるんです。だから家の雰囲気が好きで、お母さんも好きな中、宿泊をしていくということの繰り返しで、本人さんが折り合いをつけて生活していくことが一番大事ななど。ご両親は大変かもしれないですけど、少しでも帰れるところがあるといいかなと思っています。週5日、泊まったとして、日曜日だけ帰る、そんな生活もあるといいかなと、今の仲間たちを見ていてそう思います。

今女性の方で3泊から4泊になるおしゃべりできる方ですけど、「何曜日におうちへ帰るのー」って毎日言うんです。でも親御さんは本当に身体的にも大変なところがあるので、どうしてもホームが必要なんです。でもそれはご本人が折り合いをつけていくしかないのかなと。本当は家に戻れるのが一番いいのかもしれないのですけれど、家で生活することが難しいという状況です。

将来の生活で、僕はグループホームが一番というわけでもないし、入所や、ひとり暮らしできる人はひとり暮らしもいいかなと思っています。僕はスタッフ次第かなと思っていますので、グループホームでもいいスタッフがいれば、いい生活ができるだろうし、入所でも本人さんのことを考えて、しっかりやれるのであれば、本人さんにとってもいいのかなと。それは本人さんが決めていくことで、親御さんと相談しながら決めていくことであると思っています。

ためになったかどうかわかりませんが、仲間たちと日中活動を楽しく、本人さんのやりたいことを通して、本人さんの力を引き出ししていく。そういう日中活動でありたいなと思っています。そんなところを目指して、これからもやっていきたいなと思っています。

どうもありがとうございました。

【質疑応答】

■質問者:いろいろ聞かせていただきまして、ありがとうございます。いろんなことをやってきた愛光園が、松澤さんの中で、どういうふうに変わっていったらいいな、こういう活動ができるようになったらいいなとか、こういうところが足りないのここは工夫したいなという、具体的なものというのが見えていたら教えてください。

■松澤氏:スタッフが仲間たちの力を決めるのではなくて、もっと好きなものがあるんじゃないか、もっとできるんじゃないか、こうしたらおもしろいんじゃないかとか、こういうことができるんじゃないかという、常に探求・追求していくという気持ちをもって活動に取り組んでいくところが、一番大事なかなと思っています。

具体的には、活動としては、一緒にやりながら積み上げていくものかなと思っています。これをしたらいいよねというわけではなくて、仲間たちとお話をしながら展開していく中で、いろんなことが仲間たちの力になっていくと思っています。その力になっていくところを、スタッフが止めちゃいかんかなと思っています。もっともっと仲間たちの力を信じて、さらに前に進んでいくことが大事なかなと思っています。

■質問者：特別支援学校の教員をしています。今のお話の延長にあるのですが、例えば、学校の考え方で主流なのは、施設に行ったら手が足りないから、だれとでも何でもできるような子に育てなければいけないみたいな感じがあります。マイナスのイメージの目標。目標じゃないですね、イメージ。高等部になりますと、教員も少なく。学校によって違いますが、学校の中で12年間、そういうふうに自己決定、自己選択をやっても、施設はそういう現状ではない、大変だというような話になって。ここの地域の施設がそうだとやっているわけではありません。この施設も素敵です。ただ、学校の教員で、よくそういう話が出るのは事実です。学校の12年間と出てからの連携はどの程度あるか教えてください。

■松澤氏：確かに学校時代は1：1であったり、3：2であったりと、かなり手厚い部分で教育を受けられてます。やはりうちも1.7：1なんですけれど、1：1ではないので、学校ほど手厚く支援できないのが現状です。学校で介助歩行でよく歩いていたと言われても、そういう時間があまりとれるわけでもないです。ですから学校の半分もできるかどうか分かりません。ただその中でも30%でも、40%でも、本人さんたちの思いに寄り添いながら何かできるといいかなというスタンスですね。学校の先生との連携については、そこまで深くはないですね。指導で先生が来るぐらいです。あとは聞きたいことがあったら、こちらから電話して聞いたりすることはしていますけれど、定期的が集まって情報交換等をするとか、そういうところまではないです。

■質問者：いまマイナスの意見のように言ってしまったんですけど、私たち学校の教員は、たくさんのお土産をもって社会に出していこうと思っています。今こういう場で教育関係者と施設関係者と連携を取れている、顔が見える、どこまでもそういう関係のうえで支援ができる社会になったらいいなと思っています。ありがとうございました。

■質問者：今日、重心部会でやらせてもらっていて、利用者の方、当事者の方が本当に多く参加していただいています。そこで、松澤先生はこの20年ぐらいの中で、利用者、お母さんたちの活動の中で、すごく印象的だったものを教えていただきたいなど。グループホームを立ち上げられたところで、運営費は家族が負担されたという話もあったと思いますが、ご家族のアクションや福祉活動を、行政に理解してもらうというのは、歯車がかみ合った時期があったのではないかと思いますので。

■松澤氏：はじめは、うちの先代の、先代のヒロセがグループホームを考えたり、お母さん方が中心でやっていました。毎回、お母さん方とお話し合いをして、一緒に大府市に行ったり、お母さん方がバザーを開いたり、参加したりしておりました。運営費や、ホームを建てるときも、そんなに補助はなかったんです。だからA会員の方がある程度お金を出し、B会員の方も少し出してホームを建てたわけです。ホームを建てる前の運営費も1泊4千円ぐらいもらって、宿泊体験をしてきたという感じです。今のお母さん方は、僕たちと一緒にいろんなところに見学しに行ったりしていました。お母さん方もすごく積極的で、こんな部屋がいい、こんな家がいいねと話していたり。法人からはまだ難しいと言われて、稼働していない女性のホームに、親子で泊まるわみたいな勢いがあったりしました。

■質問者：特別支援学校の教員をしています。よろしくお願ひします。当事者の方たちの力や興味関心は、生活でいろんな経験を積み重ねていく中で変化、成長していくものだというふうに捉えて、そこをもっと伸ばしていくという思いのなかで活動されているのは、感動しました。

私からは、グループ活動をいろいろとやられている中で、地域とか社会の中につながっていこうとする中で、交流会をやられたり、同じ日本の仲間として義援金をだしたりということですが、そういうふうに地域や他の社会の人たちと交流を進めていく上での思いや、やった上でこういう効果があったとかエピソード的なことがありましたら、ぜひ教えていただきたいなと思います。

■松澤氏：さんさんグループのパンの売上の義援金については、東北で仲の良い法人に少しずつ渡しています。お渡しした後、その義援金で掃除機を買わせていただきましたとか、向こうの事業所のグループと手紙や写真のやり取りをしたりしたつながりがあります。

ワンデーシェフについては、特に地域の方の声は聞いてないので、まだまだこれからだと思っています。知名度がまだ低いですし、もう少し広がりのある活動をしていかないといけないなど。ただ、いちごのメンバーは自分たちで電動車椅子で動ける方もみえるので、どんなふう広報していくとか、そんなところも仲間たちと一緒にできていけば、いろんな方とまた触れ合う機会ができてくる。レストランに来てくださる方も増えるかなと考えています。地域の方と触れ合う中で、シーベースカフェの方たちとは、すごく良い関係になっていましたね。店長さんがすごく良い方でした。他のグループが作った野菜を置いてもらったり、販売してもらったり、他のグループのつながりも作ってくれたりとか、そういう形でグループの広がりが出てきたりしています。

もうひとつ、常滑焼祭りという大きなイベントがあるんです。今年、ボランティアさんのつながりで、陶芸療法士の方と結びつきができ、その陶芸療法士が陶芸療法士会の理事長をされていて、そのお力もあって常滑焼祭りに出展できました。他の方はプロやセミプロの方等が多く、完成度の高い製品がある中、個性の固まりのような作品が多かったりしたんですね。違った意味で足を止めて見てくださったりするお客さんも多くいました。

店番は仲間たちが時間を決めて交代でやったんです。中には、もっと店番したいって怒った人もいて、店に戻ってきたら落ち着いていました。それはいい機会になったかな、2回、3回と続けていけるといいなと思っています。

そこでまた、新たなひとつの結びつきができるんだなという気がしています。

■質問者：グループホームのことをお聞きしたいんですが、お母さんとかヘルパーさんとか入ることだったんですが、お医者さんとか病院との連携の仕方だとか、緊急時はどういうふうにされていますか。あとは常時通院があると思うのですが、そういうのはどなたが、どういうふうにされているのかを教えてくださいたいのですが。

■松澤氏：通院は、巡回の看護師がホームでも入っていますので、定期的受診は看護師が付き添います。あと通院介助をつけてヘルパーと一緒にいくことが多いですね。一応親御さんも一緒に来ていただくことにしていますけれども、看護師が難しいときは、ホームのスタッフが一緒についていたり、愛光園で日中にちょっと熱が出たとか、そういうときは空いているスタッフが一緒に行ったり、ホームのメンバーが行ったりしております。

緊急時については、そこまで医療的な、ドクターとのつながりというのはまだできていない状況です。何かあった場合は、救急車を呼ぶという形ですね。今のところはドクターに来ていただくというところではないです。そういったのが現状です。

今はホームの近くにできたお医者さんとかに、何かあったときは顔を出し、少しずつ理解が深まっているホームもあります。そこに行こうということです。そういう形でしております。

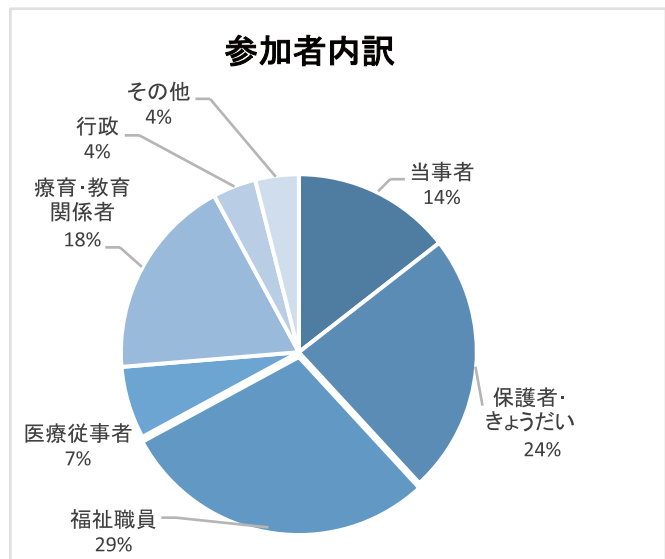
■質問者：ありがとうございました。

(終)



みんな集まれ!わくわく生活検討会 参加者内訳

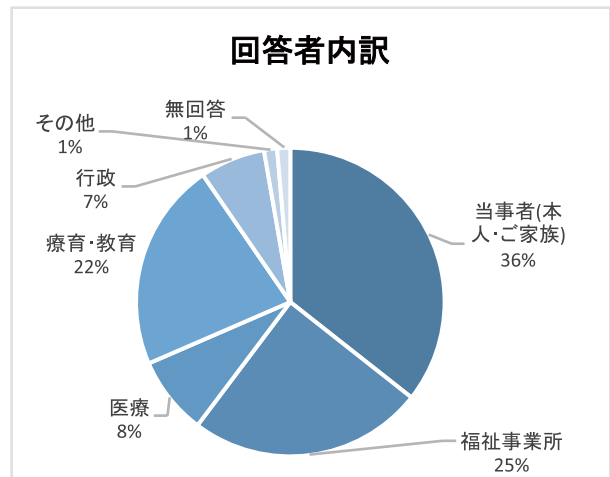
立場	人数
当事者	22
保護者(入学前)	3
保護者(小学校)	8
保護者(中学校)	9
保護者(高校)	3
保護者(通所・他)	12
きょうだい	1
福祉職員(入所)	3
福祉職員(通所)	27
福祉職員(在宅支援)	14
医療従事者(医師)	2
医療従事者(看護師)	6
医療従事者(その他)	2
療育・教育関係者	28
行政	6
その他	6
合計	152



みんな集まれ!わくわく生活検討会 アンケート結果

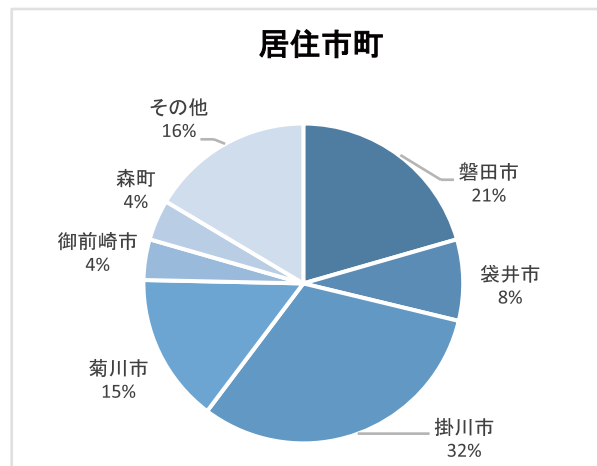
1. どのような立場で出席されましたか？

当事者(本人・ご家族)	26
福祉事業所	18
医療	6
療育・教育	16
行政	5
その他	1
無回答	1
合計	73



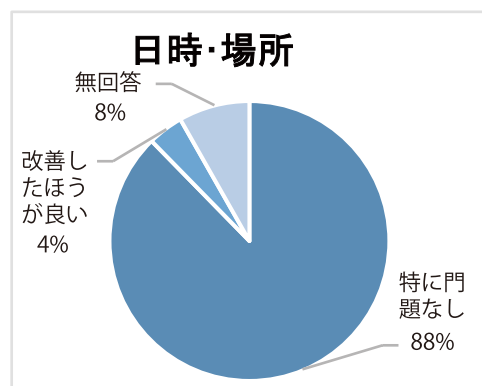
2. お住まいの地域を教えてください。

磐田市	15
袋井市	6
掛川市	23
菊川市	11
御前崎市	3
森町	3
その他	12
合計	73



3. 日時や場所の設定についてはいかがでしたか？

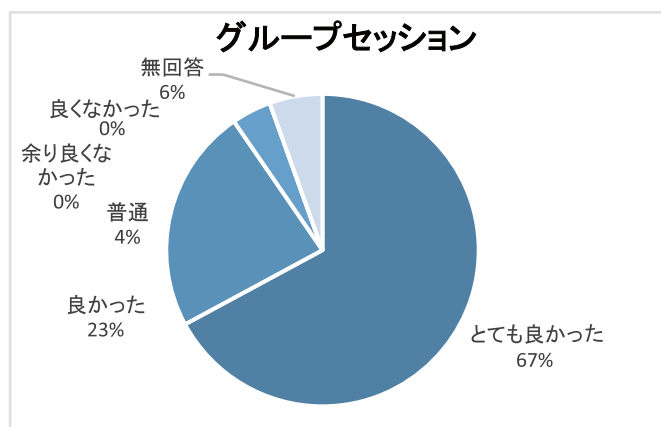
特に問題なし	64
改善したほうが良い	3
無回答	6
合計	73



- ・良い気候の時に出来て良かった。当事者も来やすい時期では？
- ・もう少し広い方が声が聞き取りやすかったと思います。
- ・案内（講演の冊子等）が前もってあったらよかったと思う。
- ・教員は異動があるため、年に2回。
- ・当事者・家族と触れ合うという意味で、施設を会場にしたことは良かったと思います。又、春休みということで、多くの子どもさんたちが参加できたと思います。
- ・時間が足りないですね。又、開催をして欲しいです。
- ・講演の際にトイレ側に向けて聞く形だったので、もし途中でトイレに行きたくなった人は講演の真横を通らないといけないので行きづらいと思った。
- ・平日のほうが良かった。

4. グループセッションはいかがでしたか？

とても良かった	49
良かった	17
普通	3
余り良くなかった	0
良くなかった	0
無回答	4
合計	73



- ・様々な方の意見が聞けた。ナース・Dr. 施設職員、未就学児の保護者、成人の保護者…
- ・知的のお子さんの保護者の方もいて、広い障がいの幅がある班でとてもよかった。
- ・意見も聞いてもらい、話す機会があり良かったです。
- ・声がもう少し聞こえると良かった。輪が大きすぎたかな。
- ・保護者の方の感じていること、考えていること等を直接うかがうことができ、とても良かったです。今後、自分達に出来ることは何か？ということについて考えていく上で大変参考になりました。
- ・大きなテーマはあったが細かいテーマについて話すほうが良かった!?
- ・どんな人が来るか知らせがないため少し戸惑いがあった。
- ・当事者・保護者の困っていることが（本音）聞け、知ることが出来て良かったです。
- ・色々な問題点・ニーズが分かり、とても良かった。
- ・隣が近く、丸くなって話が出来て良かったです。意見をまとめるのは難しかったと思いますが、色々な話が出るのが大事だと思うのでそれで良かったですと思います。
- ・時間がなくて（一つの課題に時間を要する）深いところまでの話が出来なかったかな…グループ毎で課題を決めて話をしても良いのかな…
- ・グループ毎に意見が違って、興味深かった。
- ・保護者の普段言えない本音（不安等）をきけて参考になりました。
- ・学校他支援が少なかった時代に苦労された親御さん。これから就学に向けて不安を抱えた親御さんの話。県内様々な支援の差について学ぶことが出来ました。
- ・話しやすい雰囲気ですとまとめてくださりありがとうございました。
- ・保護者の方の本心をお聞きする機会を頂き、学校として、一個人としてできることがまだあるように感じ、反省をしました。特支の教員としての役割を改めて考えさせられました。

- ・当事者の「あれをしたい」という意見に対し、行政からサービスを提示して終わりではなく、他の方から「ウチはこうしている、こうするといいんじゃない?」と意見を出し合える雰囲気がとても良かったです。大事なことは、「ウチでも何とかなりそう、やってみよう」と思ってもらえることだと思います。
- ・保護者の意見を行政の方(医ケア待機を知らなかった)に聞いてもらえた。
- ・親から非常に熱い声が聞けたことがとても良かった。行政としても情報の周知等、当事者が自分らしく地域で暮らしているように考えていかなければいけないと感じた。
- ・家族の思いや施設の方の色々な話を聞いてよかった。行政の中にいると、どうしても机上の処理になりがちなので、どんな支援が必要なのか少し見えてきました。
- ・当事者の方が、気楽に思いを話せるスタンスでよかった。行政としても生の声を聞ける機会を得られたことは大変良かったと思います。
- ・参加するまで保護者同士のグループだと思っていたのですが、学校の先生、行政の方、事業所の方、保護者の方も色々な年代のお子さんの母親だったり、いろんな方のお話が聞けました。アドバイスをもらったり、知らなかったことの話はとても参考になりました。参加できて良かったです。
- ・色々な立場の方の意見を聞いてよかった。とても刺激になりました。
- ・当事者・保護者の困っていること、悩みの生の声が聞けてとても勉強になった。沢山の立場の人がこうやって集まる機会があると、その場で意見交換が出来るので良い。又、施設の方や行政の方とも直接会って話せるので、顔を知ってもらえる機会にもなった。
- ・保護者が伝えたいことを話していた
- ・当事者の方の思いが一番だと思うので、沢山の参加があったので良かったです。とても明るい雰囲気でした。
- ・もう少し時間があると、多くの人から話を聞けたのではと思います。
- ・医療・福祉・教育・当事者各々の立場から意見交換がなされ、何か出来るかを真剣に考えた時間となった。
- ・保護者の方の素直な意見を伺えて、とても参考になりました。
- ・初めて参加させていただきましたが、生活介護、就労、医療など地域ごとでサービスが異なること、依然施設が少なく在宅へ引きこもる方も多い等、サービス内容や現状を理解できていない自分にとって勉強になると同時に、医療従事者として何が出来るかを再考する機会となりました。
- ・当事者と出会えるセッションでした。
- ・親御さんの率直な意見が聞いてよかったです。まだまだ知らないことが多いので勉強になりました。
- ・親御さんの思い、困っている事、願い等を聞くことが出来て良かったです。又、地域によつての違いや取組みを知ることが出来て良かったです。
- ・皆さん活発に話をされていて、参考になりました。
- ・途中からでしたが熱くて厚い意見、聞けました。
- ・ご家族のリアルなニーズをお聞きできた。
- ・普段、小学生くらいのお子さんのお話を聞く機会はないので参考になりました。
- ・もう少し活発に意見や思いを伝えられる場、時間が必要と思いました。声が聞こえにくい。
- ・当事者の思いを聞くことが出来て良かったです。
- ・先輩保護者の意見等聞けて良かったと思います。
- ・施設の方のお話や、地域での色々利用できるサービスについての話を聞きたかった。
- ・グループ毎にテーマを決めて、そのことについて深く話せるのも良いかと思った。
- ・それぞれの抱える課題・悩みを具体的に知ることが出来た。
- ・日ごろ自分なりに考えていることが言えてよかった。
- ・家族様の思っていること、感じていること、日々の生活について聞いてもっとサービスの充実度が上がればよいと思いました。
- ・色々な角度から話が聞いてよかった。働く場所は勿論、楽しく生活出来たらよいと思った。しかし現実には難しいようでした。今後心配だと痛感した。
- ・皆さんの意見等色々聞いて良かったです。
- ・時間がもう少し欲しかった。
- ・将来学校卒業後の進路についての不安がとても大きいということを痛感しました。

5. 講演の感想をお聞かせください。

- ・なかなかこの辺でなかったように思います。たくさんの人に参加してもらってもっと広まればと思いました。
- ・すごいです。愛光園すごいですね。

- ・重心の方の活動や、GHでの暮らしなど、生活に必要なサービスのことや、実践が具体的に伺えて参考になりました。人材不足については、どこでも同じ課題をもっているということを感じました。
- ・所長さんの話の中で、地域と仲良くする、利用者さんを「仲間」と呼んでいる所で所長さん、利用者さんがいつも「楽しい」を持って活動しているのが見えてくるようでした。
- ・課題になることや悩みはどこも共通していると思った。施設の方の生のお話が聞けて視野が広がった。
- ・グループ活動、仲間たちがあって決まってくること。分かっていることでしたが、どこか都合で行っていたこともあったのかなと思った事がありました。改めて当事者・仲間の姿を大切に、気付いていけるよう見ていきたいと思いました。
- ・充実している様子が分かりました。
- ・施設の様子はよく分かったが…講演はグループセッションの前にやった方が良かったと思った。グループセッションの総評、とても大事なのに、その時間が少なかったのが残念だったと思う(子供達に近い内容の話がたくさんあったので…)
- ・重心の方にも色々な経験・体験をもらい、本人が輝いて暮らしていけるような支援、参考になりました。
- ・自分の施設でも実践してみたいことがあり、参考になりました。
- ・意思決定支援のサインの共有というのはとても共感することでした。本人のことを固定化してみるのではなく、常に一つ一つの変化をよく見つけ、力の可能性を伸ばしていくということは、支援員だけでなく親としても、この子はこういう子だと決め付けず、接していくようにしなければと思いました。又、こういう支援員さんたちに囲まれて生活できることは幸せなことだし、そうあってほしいと願っています。
- ・自分にとっては意思決定支援、関係性の拡がりについて…これができたらいいなあ～と感じた。サークル活動・グループ活動がたくさんあり、やれること、楽しめることを選択肢が広がっていいなあと思いました。 楽しめる事を親が決めず本人との関わりの中で一緒に見つける、探す(試す)機会を増やしたいと思った。
- ・事業所さんからの内部の言葉は、これから先どのように努めていけばよいか参考になりました。
- ・子ども達も成人になっても、それぞれの個性や、その人が何をしたらその人らしい生活なのか、個性を大切にしたい関わりが大事だと実感しました。
- ・他の市の生活介護事業所・グループホームの成り立ち参考になりました。地域のふれあいは本当に良いですね。
- ・生活していくことも大切。でも、余暇活動の充実した施設を利用できる方は毎日楽しく生きていけるのだろうかと感じた。浜松、中東遠の地域に、こんなに考えてくれる施設はあるのだろうかと思った。
- ・本人の意思を確認することが難しいのですが、本人が楽しく過ごせるような場所を、もっと積極的に見つけていくべきだと感じました。
- ・入所の施設にも行くことがありますが、グループ活動をこんなに活発に行っている施設はなかなかないと思います。施設の生活は固定化されてしまいがちだと思いますが、愛光園の利用者は毎日楽しみなのではないでしょうか。職員さんが開設時から工夫されているんだなと思いました。
- ・意思決定の支援をしていくことは非常に難しく、粘り強さが必要になってくると思った。周りの人間との関わりを増やしていく中で自分らしさ、自分の可能性を広げる支援が行われている必要があると感じた。
- ・当事者の方を「仲間たち」という呼び方で接していることに驚きました。どうしても利用者の方という言い方が一般的なのかと思っていました。当事者の方も声をあげて一緒に住みやすい生活を考えていくことが大切だと感じました。地域の中に当事者が溶け込んでいる様子がよく分かりました。
- ・高等部を卒業した後の施設としての、色々な活動等の話が聞けてよかったです。グループホームの話はとても興味がありました。A会員、B会員、C会員の選択肢があるのはとても良いです。
- ・講師の熱意が伝わってきました。
- ・地域の方への発信、つながりがとても沢山あってすごいなと感じた。施設の方が何回も何回も足を運んで開拓されていたのかなーと努力を感じました。福祉の現場も人材不足の為、「やりたいけど稼働できない」等の悩みを持っている。その悩みを解消する為に努力していただいている事も分かった。
- ・他県の講演で刺激を受けるのもいいですが、行政さんのこういう利用できるのがこの市にはあるといった話も聞いてみたいです。もしくは、保護者の交流時間が地域毎にあるとよいと思いました。
- ・松澤さんが、「利用者のことが大好き」という事があらためて分かりました。ありがとうございます。
- ・グループホームの立ち上げまでの話が良かった。課題(人材不足)はどこも聞かれる。どうしたらよいのだろうか？
- ・実践活動について、具体的に話を伺えて勉強になりました。
- ・写真が多くてよかった。
- ・大変良かったと思います。
- ・施設での外へ出るきっかけを作るのは職員であり、ちょっとした好奇心が行動を作ると刺激を受けた。
- ・いろいろな活動があって、一人ひとりが楽しんでいる様子が見れて良かったです。人材不足に関して、掛川市はどうなのだろうと思いました。

- ・さまざまな取組みをされていることに感激しました。ご本人の思いを形にすること、一緒に考えることの楽しさを感じながらの支援は、ステキだと思いました。
- ・生かされる場がありよいスタッフに恵まれて素晴らしいと思いました。
- ・とても良いお話が聞けて嬉しかったです。
- ・写真を多く見せていただいて、わかりやすかったのですが、ちょっと見えにくいのが残念でした。グループホームの立ち上げ等、少し参考になりました。
- ・自己決定の尊重、意思を汲み取ることを大事にされているのが特に素晴らしい。
- ・30年余りのノウハウが詰まった講演でした。
- ・以前に一度見学に行った事があり、その当時からいろいろ工夫を凝らして、園生さんの気持ちに沿った内容で活気がありましたね。ボランティアさんも大勢いらして賑やかなグループが沢山出来て楽しそうです。意思決定の汲み取り方がステキ。
- ・外部との関わり合いがとても多いなと思った。スタッフの方には負担にもなると思うがやっているのがすごい！利用者のQOLを高めていると感じた。長い歴史の中でボランティアが多いのかも。重心のグループホームの話は初めてきて目からウロコでした。外部からヘルパー、訪看、訪問リハ等連携することで成り立っているなんて！自力でやろうなんて、確かに難しいですね。納得です。
- ・愛光園・松澤さんのお話を聞いて、掛川市でも20代の方たちが利用できる施設が早く出来たら良いな—と思いました。
- ・様々な体験が、自分の思いにつながる経験につながっているなと感じました。スタッフ同士の話し合いの大切さを感じました。
- ・障害者の方々が一人ひとり大切に、色々なサービスを利用してよりよい生活をしていると思いました。
- ・このような施設が増えていったらいいなと思いました。
- ・重心者の活動について色々考えさせられた。事業所の職員にぜひきいてもらいたかった。思う事をご自由にお聞かせください。

6. 今後中東遠圏域自立支援協議会の活動に期待する事や、重心児(者)の方への支援に 対して思う事をご自由にお聞かせください。

- ・卒業後の施設、特支の現状の遅れ、医療型施設の充実…声をあげる、どうあげるのがいいのか？声を上げるのは保護者…それをサポートしたい。
- ・残念ながら学校卒業後行く先がありません。真剣に考えていきたいです。
- ・こんなに熱心な方がたくさんいることに感激しました。皆で情熱の輪を広げて社会の理解を深めていきたい。
- ・部会の中でこのような会が開催されたことと、参加させていただいて、とても良かったです。当事者(保護者)の方の生の声が聞けたことがとても良かったです。
- ・今回の参加で、中東遠での様子が今まで知らない事が多く、年何回か集まって話す機会があれば、近い西部方面のつながりもでてくるのではないのでしょうか？私自身、中東遠に住所はありますが、西部の活動を主にしているので、もっと色々な情報をお互いに出しあい、行政・市県にも動いてもらいたいものです。
- ・自立支援協議会の存在、役割が一般職員にはぴんと来ない方もいるかも知れません。情報公開？回覧？位でも…(教育関係)
- ・ショートステイが出来ることを望みます。
- ・今日の皆さんの声が、一つでも良い形として変えていけることが出来たらと思いました。
- ・こども達のことは勿論、親たちに対しても支援する活動が増えていってもらえたら嬉しいです。
- ・色々な施設・サービスを重心の方々、保護者の方々に発信して欲しい。
- ・生活支援センターや施設に相談することで、いろいろな情報が誰でも得られると思います。みんなが共有できるよう色々な会が有効的にはたらければいいなあと考えています。
- ・支援について…親と出来ることや親との関わりだけでは充実した生活は得られません。他人とどの位関わり、いい関係が持てるかはとても大切なことです。心で向き合う支援をお願いしたいです。
- ・重心がりハビリ・泊まりできるよう考えてほしい。
- ・訪看はじめ医療関係者がもっと参加できるようにアピールしていきます。
- ・このような年齢の幅がある方々を集める生活検討会は継続できると良いですね。
- ・今回参加し、当事者の方の学校卒業後の不安感を切に感じました。地域で安心して過ごせるために、施設・受け入れ先が充実していくことを願っています。
- ・本人・保護者が選択出来る環境を早急に整える必要があると感じた。一般の方が選択出来るように、平等に選択できる権利を整えていける社会でありたい。社会の目なのか施設等の居場所なのか…その重大さに気づけない社会がとても悲しい。気づく機会がないことがとても残念。今日のような機会を増やしていけるといいなと感じました。今日はありがとうございました。

- ・施設が圧倒的に少ないと感じます。このような話を聞ける機会があれば行きたいです。
- ・行政としても、国・県のサービスが多岐に渡っていて全てを把握できていない部分や、市町によって行っていないものが多い。こちらから当事者にこういうものがありますよ、と投げかけるのが難しい面もあるので「～をしたいんだけど、どういもの（サービス）がありますか」と聞いていただけるとありがたいです。只、そこに医ケアが絡んでくると、使えるサービスがかなり限られてしまう現状については力不足を感じております。
- ・各市町サービスが異なる部分（負担額・制度）があるので、周知、又困った事例（サービスが使えない）等を知りたい。
- ・今後もこのような連絡会に期待します。
- ・福祉の現場、当事者・保護者の願いは沢山聞けたので、今後も今回のような話し合う場があると良いとおもった。学校（療育）の現場として、何を努力していかないといけないのか？考えていきたい。小・中・高等部の職員がみんな福祉の現場の実情を知る必要がある。
- ・訪問診療を受けたいような方が施設を利用できるよう、看護師さんの確保や、スタッフさんを育てていただけるともっと保護者の負担が減ると思います。よろしく願います。
- ・各地区で重心に対する認識が少しずつ高まってきました。地道な努力が実を結んだと思います。全県大会が出来るの良いですね。
- ・富士圏域の重症児者部会の参考にして頂きたく、次回も参加させていただけたらと思います。今日はありがとうございました。
- ・教育の立場として、出来ること（情報を地域・重心の方に発信、重心の方の地域への発信）を積極的に行っていきたい。呼吸器を付けた子の受け入れも、学校でできると良いが…
- ・他の部会でも、このような機会があればと思いました。
- ・より多くの方が、より多くの重心の方を知っていくことが大事ですね。
- ・情報交換の場を多く作って欲しいです。
- ・従事者のマンパワー確保、施設の少なさなどがあり、現在の高齢者に行っている地域包括ケアを、重心等にも適応できる環境整備が必要と思われた。
- ・地域協議会との絡みが出て、課題が出入りしたら、報告を聞いてみたい。
- ・今後も地域の方と交流する機会を作っていただきたいと思います。
- ・先進的な地域の施設、保護者の方の取組み等紹介していただけたらと思います。
- ・様々な要望を知り、自立を支援する際の具体的目標を立てる難しさを感じました。
- ・終了時間は15時30分くらいにしたほうが良いと思う。長かった。
- ・1日→2日→3日と短期入所が延ばしていけるような所が欲しいです。子供が折り合いをつけられるような時を待ちたい。
- ・志太榛原圏域から参加させてもらった。ケアの方の施設が少ない、リハビリ・ショートの問題等、どこも悩みは同じだなと思った。定期的にこのような機会を持ち情報交換やニーズの吸い上げをするべき。当事者（親）、行政、事業所三位一体で協力して将来につなげていけると良いと思う。
- ・支援学校を卒業してからも安心して暮らせるよう、サービスをしっかり行いたいです。
- ・生活の基盤は、どこが正しいのか分かりませんが、利用者も、保護者も、安心していつでも預かってもらえる場所があると良いなと思いました。
- ・情報交換できる場所になってほしい。
- ・このような検討会が出来たことはとても良いと思う。家族・学校・医療との連携を密にしてより良い方向に進めるよう今後も考え、共有していくことが大事だと思う。
- ・当事者・福祉事業所・医療・教育・行政の一つだけが頑張っても限界があるので、地域も含めて、つながりで一体となって動いていくことが大切だと思いました。
- ・入浴時大変とお話を沢山聞いたので、またこのような機会がありましたら入浴のデモなどもやらせていただき、もっと身近に感じて欲しいと思いました。
- ・保護者の要望が成人施設まで通じない。せつかく学校まで頑張ってきたことのつなぎ（絆）をもっとしっかりやって受け入れたい。受け入れ希望の保護者の情報を下さい。
- ・卒業後、知的でも排便、手が出るなどの子どもでも通える場所が掛川にほしい。
- ・卒業後の通う場所がないので、幅広く受け入れしていただける生活介護を是非作って欲しいと思っています。よろしく願います。今日みたいな場に来て良かったです。ありがとうございました。

みんな集まれ!わくわく生活検討会

準備委員会名簿

(順不同・敬称略)

	所 属	氏 名
部会長 準備委員長	磐田市立総合病院	白井 眞美
準備委員	中東遠圏域自立支援協議会 スーパーバイザー	高橋 幸孝
準備委員	ザック	牧野 京子
準備委員	PASSO	竹澤 さおり
準備委員	袋井特別支援学校	高橋 亜希子
準備委員	掛川特別支援学校	夏目 奈保子
準備委員	はまぼう・あにまあと	高橋 和己
準備委員		伊藤 流美子
準備委員		片岡 みな
準備委員	磐田市障害者相談支援センター	松本 一男
準備委員	こども発達センターみなみめばえ	窪野 香織
準備委員	生活介護事業所 ぴのほーぷ	松下 剛己
準備委員		長坂 智香子
準備委員		沖 郁恵

本検討会は静岡県社会福祉協議会「社会福祉事業振興の為の助成金」を受け開催しています。